

8-3 松本城クイズ31 川北の武家地の変遷 (解答・解説)

松本城管理事務所研究室

1. 右の絵図を見ても分るように、武家地は城郭内と郭の外辺から〇〇一帯に広がりを見せている。〇〇に入る言葉を、次のうちから一つ選びなさい。.....③

松本の都市構造も、武士と町人の別住の原則は貫かれている。武家地は、城郭内と郭の外辺から北部一帯に広がりを見せており、城下を北東部と南東部に分けてみると、北東部に集中している。

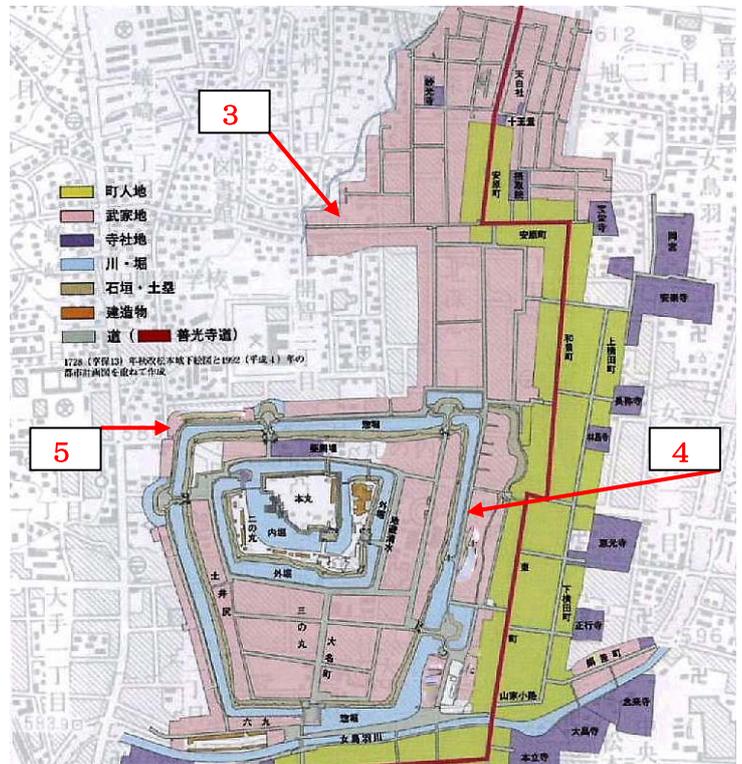
2. 武家地のことを別名何と呼ばれていたか、次のうちから一つ選びなさい。.....④

武家地のことを御屋敷とも呼ばれた。

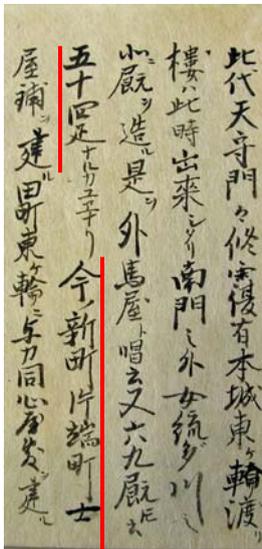
3. 元和3年(1617)に入封した松本城主は、武家地の拡張をした。安原横町の西側に武家地(御徒士町：おかちまち)を建設して移住をすすめた(絵図の3番の町である)。この城主は、次のうち誰にあたるか一つ選びなさい。.....②

元和3年(1617)、小笠原氏の後継として入封した戸田康長は、武家地の拡張を行い、城北の安原町横町の西方に徒士屋敷(かちやしき)、御徒士町(おかちまち)を造った。

「大守累年記」(川辺家文書)によると「...安原町西に歩行土屋敷を建る...」と記している。



4. 「...今ノ新町〇〇〇土屋敷(さむらいやしき)ヲ建ル、田町東ヶ輪(東側)に与力同心屋ヲ建ル...」 「大守累年記」(川辺家文書)とある。この時の城主は、松平直政である。〇〇〇はどこの町か(絵図の4番の町)、次の中から一つ選びなさい。.....①



片端町である。(赤線の部分)

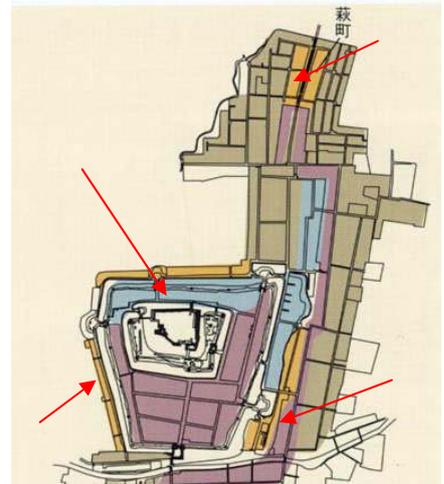
5. 「...西堀町御歩行町北馬場出来ル西二小河町出来ル...」 「大守累年記」(川辺家文書)とある。さて、この小河町は、後に何という町に変わったか、次のうちから一つ選びなさい。(絵図の5番の町).....④

「大守累年記」(川辺家文書)によると、「...西堀町御歩行町北馬場出来ル 西に小河町出来ル 後鷹匠町と云う...」とある。

6. その後、萩町、上土、出居番等の町（赤の矢印の町）に武家屋敷を建てたり、整備してほぼ城下町が出来上がった。この時の城主は何家の代か、次の中から一つ選びなさい。

.....②

水野氏は、城郭周辺に上土（あげつち）・北馬場（きたばば）・出居番町（でいばんちょう）西堀（にしほり）・萩町（はぎまち）などの屋敷町を整え、これらの区域には藩の諸施設も設置して、城下の機能を充実させた。こうして、城下町の建設事業は**水野氏の代**でほぼ完成をみるようになった。



7. 「旧松本市史」によると、萩町の屋敷は両側とも街道より2間ほどさがって建てられ、萩垣を造って街道と区画したので萩町となったと説明している。「信府統記」では、城主水野忠直の時に、萩垣に代わって〇〇にしたと記している。さて何に代わったのか、一つ選びなさい。.....④

「信府統記」二十三 城外町間によると、「・・・萩町 南北長さ2丁16間、東西共に一里塚迄塀なり、北の出口に番所あり、番人小人、木戸両脇柵あり、此所昔は左右萩垣なりし故此名あり、**忠直公塀になされ、・・・**」と記している。（カタカナをひらがなに直す）

8. 享保10年（1725）水野氏改易（かいえき）の頃、城内（郭内）侍屋敷数は98軒、城外（郭外）侍屋敷数はどのくらいあったでしょうか。次の中から一つ選びなさい。

.....③

享保10年(1725)、水野氏の改易の年の侍屋敷数は、

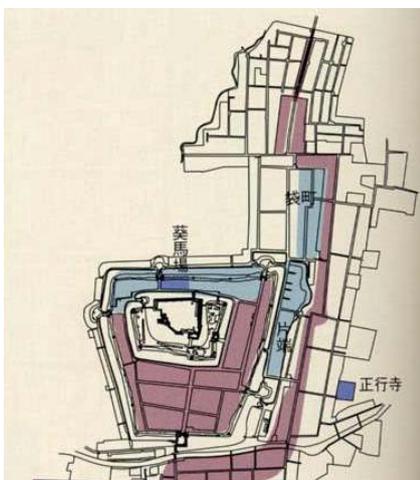
○城内土屋敷数..... 98軒

※出仕・・・民から官に仕えること

○木戸外屋敷（郭外屋敷）..... **660軒**

人口は6072人（内下男下女1249人、出仕者は1339人であった）。

9. 城外（郭外）で比較的上級の武士80石から200石の禄高（ろくだか：報酬）がいた侍屋敷はどこか、次のうちから一つ選びなさい。.....①



城外で比較的上級の武士のいた侍屋敷は**片端町**である。「享保13年秋改松本城下絵図」によると、東側南より郡代所、高橋領左衛門、星山直右衛門（100石）、中村弥五兵衛（150石）、小里新五兵衛（100石）、田邊覚左衛門（120石）と屋敷が続く。およそ80石から200石級の武士の屋敷があった。

10. 城外（郭外）で、次の4町のうち中級武士がいなかったのはどこの町にあたるか、一つ選びなさい。

.....①

中級の武士がいた侍屋敷は、上土・六九町・北馬場・鷹匠町・袋町・新町・田町であった。したがって**口張町**（こうばりちょう）には、下級武士が住んでいた。